

木造住宅用鉛直度矯正器

# 屋起こしナンバーワン極

## 逆向使用対応モデル

NK-4700KWSS (標準型) NK-4000KWCS (コンパクト型)



製品説明動画 公開中!

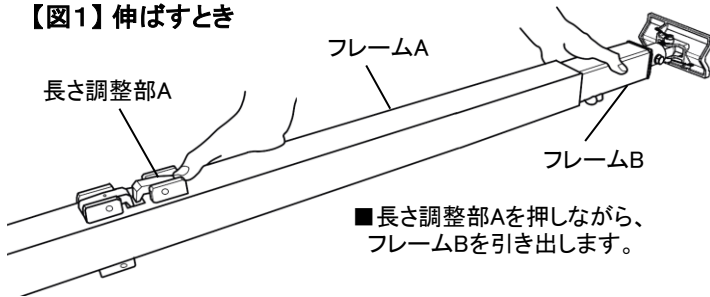
<https://nakaya-tools.com/>

この度は屋起こしナンバーワン極(逆向使用対応モデル)をお買い上げ頂き、誠にありがとうございます。  
ご使用に先立ち、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分ご理解の上で、適切な取り扱いと保守をいただき、  
いつまでも安全に能率よくお使いくださるようお願い致します。なお、この取扱説明書はお手元に大切に保管してください。

### 操作方法

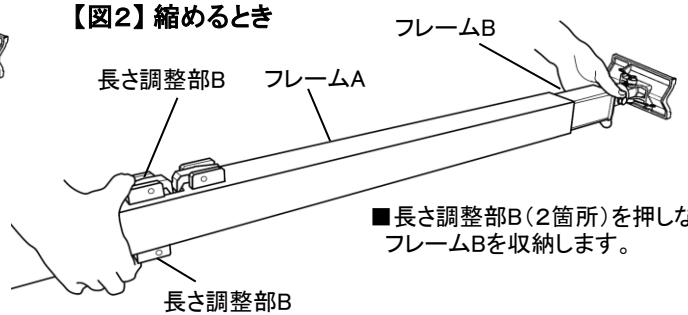
(1) フレームを適切な長さに調整します。

【図1】伸ばすとき



■長さ調整部Aを押しながら、  
フレームBを引き出します。

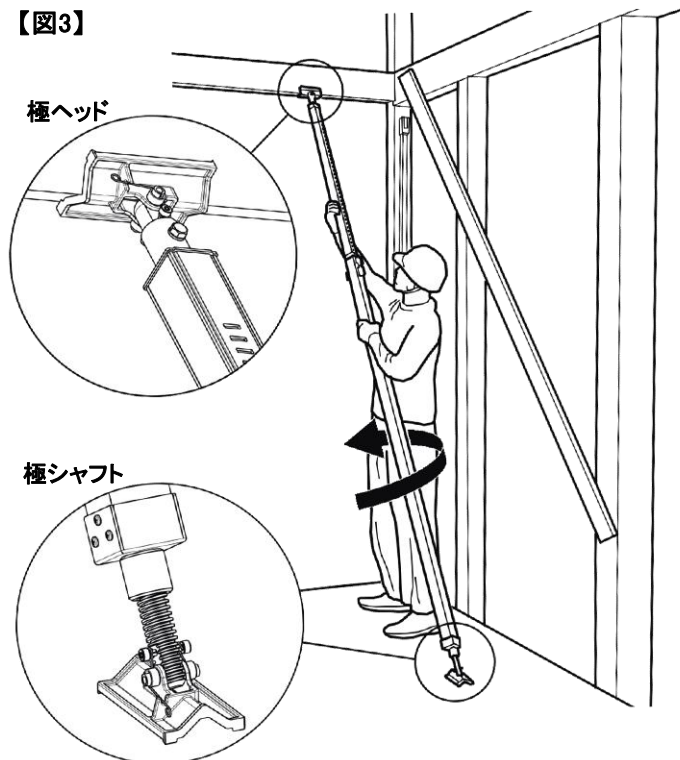
【図2】縮めるとき



■長さ調整部B(2箇所)を押しながら、  
フレームBを収納します。

### 通常使用の場合

【図3】

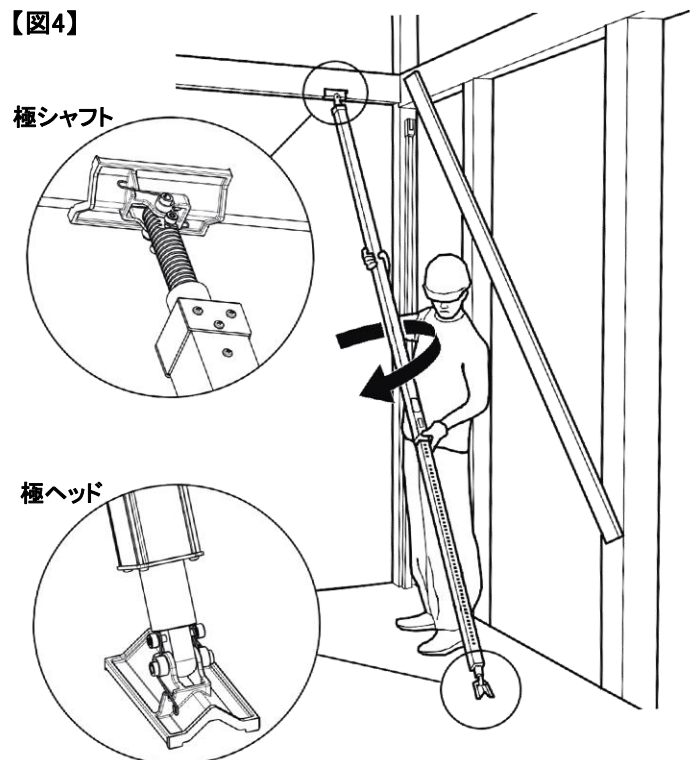


- (1) 極シャフトを床材、もしくは大引にセットします。  
長さ調整部Aを押しながら、フレームBを上方向に伸ばし、  
極ヘッドを押し出したい上方の梁にセットします。
- (2) フレームを右回りに回すと、極シャフトが  
床材を押し始めます。  
※床材がコンクリートなど滑りやすい材質である  
場合には足でプレート部を踏みつけて 固定してください。
- (3) 鉛直度を確認しながら、適切な位置にすじかい  
を取り付けます。
- (4) 矯正作業が完了したら、フレームを左回りに  
回して、屋起こしナンバーワン極を取りはずします。

### 逆向使用の場合

※長さ調整部の位置が高く、  
手が届きにくい場合。

【図4】



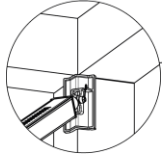
- (1) 本体を上下逆さに持ち上げ、極シャフトを梁にセットします。  
長さ調整部Aを押し、フレームBを下方向に伸ばして極ヘッドを  
床材にセットします。  
※長さ調整部Aを押し、フレームは自重で落下して伸びます。  
操作する際は、けがをしないよう注意してご使用ください。
- (2) フレームを左回りに回すと、極シャフトが  
梁を押し始めます。  
※床材がコンクリートなど滑りやすい材質である  
場合には足でプレート部を踏みつけて 固定してください。
- (3) 鉛直度を確認しながら、適切な位置にすじかい  
を取り付けます。
- (4) 矯正作業が完了したら、フレームを右回りに  
回して、屋起こしナンバーワン極を取りはずします。

裏面へ続く

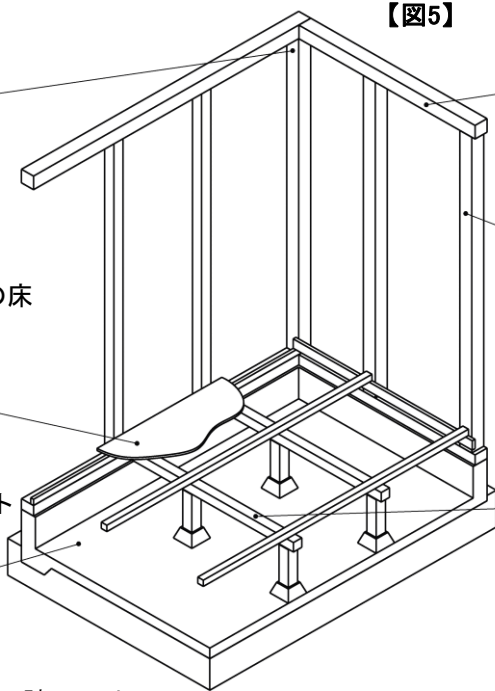
## 施工可能箇所

極プレートは下図の様な箇所で使用可能です。

コーナー・角



【図5】



梁

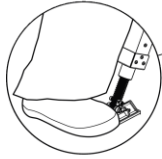
面

大引など

根太レス工法の床



土間コンクリート

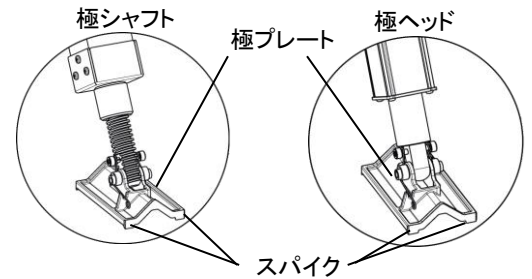


※プレート部を足で踏みつけて固定してください。

## 注意

- ・スパイクは鋭利な形状となっておりますので取扱には十分ご注意ください。
- ・フレーム長調整の際には、フレーム間に手を挟まぬよう十分ご注意ください。
- ・スパイクが床材に傷を付ける可能性がありますので、スパイクプレートは支障の無い場所に設置してください。
- ・フレームがゆがみ始めたら、矯正作業をただちに中止してください。そのまま無理にご使用になりますと、各機構部品の破損の原因となります。
- ・スパイクは消耗します。引掛かりが少なくなりましたら、別売部品 極シャフトNK-KWSSをお買い求めください。

【図6】各部名称

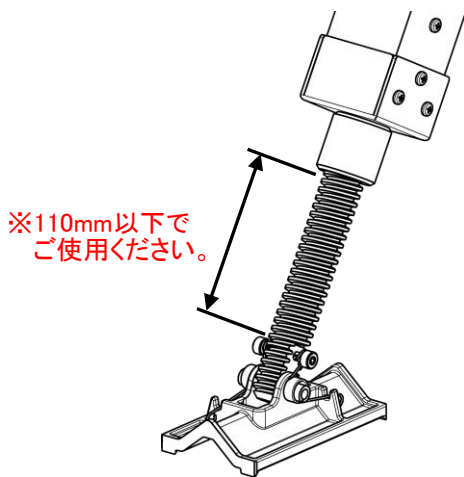


## 製品仕様

製品名		屋起こしナンバーワン極 逆向使用対応モデル	
仕様		標準型	コンパクト型
型名		NK-4700KWSS	NK-4000KWCS
全長	収納時	2,780mm	2,250mm
	最短セット時	2,780mm	2,250mm
	最長セット時	4,700mm	4,000mm
最大セット高		3,940mm (約13尺)	3,030mm (約10尺)
耐荷重(最大伸長時)		3.9kN (400kgf)	5.1kN (520kgf)
質量		7.6kg	6.4kg

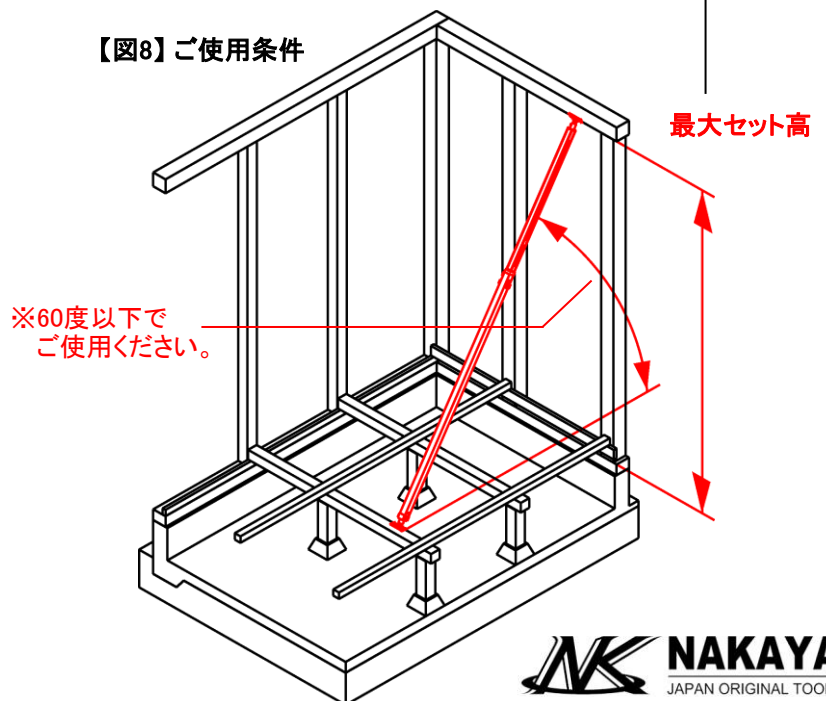
※製品改良のため、外観および仕様は、予告無く変更する場合がございます。

【図7】連結ねじ部限界長さ



※110mm以下で  
ご使用ください。

【図8】ご使用条件



※60度以下で  
ご使用ください。

矯正作業中の極プレート連結ねじ部の限界長さは約120mmとなります。この長さ以上の作業はお避けください。各機構部品の破損の原因となります。